

会 議 録

会議の名称	平成26年度第3回川越市事業評価外部会議
開催日時	平成26年10月23日(木) 18時00分 開会 ・ 21時00分 閉会
開催場所	市役所第5委員会室
議長氏名	石川 久(淑徳大学教授)【評価人リーダー】
出席者氏名	<p>【外部評価人】 別添名簿のとおり</p> <p>【文化芸術振興課(1事業目)】 前島 和行(課長) 深井 英仁(副課長) 嶋崎 浩子(主査) 菅原 翔太(主事補)</p> <p>【雇用支援課(2事業目)】 市川 孝一(課長) 内田 修弘(副課長) 檜田 麻実(主査) 木村 俊範(主任)</p>
欠席者氏名	なし
事務局職員職氏名	矢部 竹雄(政策財政部長) 齊藤 洋一(政策財政部参事兼行政改革推進課長) 若林 昭彦(行政改革推進課副課長) 町田 順一(行政改革推進課副主任)
会議次第	1 開 会 2 外部評価人紹介 3 議 事 (1) 1事業目の外部評価 (2) 2事業目の外部評価 4 閉 会
配布資料	・ 会議の基本資料 【別紙1】 ・ 事業資料(1.川越市美術展覧会・文芸川越編集刊行)【別紙2】 ・ 事業資料(2.勤労者福祉補助事務) 【別紙3】 ・ (参考)事務事業評価シートの見方 【別紙4】

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開 会</p> <p>2 外部評価人紹介 石川評価人（リーダー） 高梨評価人（左） 高橋評価人（右） 成松評価人（右） 真下評価人（右） 増野評価人（左）</p> <p>3 外部評価</p> <p>（ 1 ） 1 事業目の外部評価 【対象事業：「川越市美術展覧会」 「文芸川越編集刊行」（文化芸術振興課）】</p>
評価人リーダー	<p>それでは、外部評価を行っていきたいと思います。 事業の概要について、10分ほどで説明をお願いいたします。</p> <p>事業概要の説明</p> <p>事業概要について説明 （文化芸術振興課長・文化芸術振興課担当者）</p> <p>質疑応答・議論</p>
評価人评价人 リーダー	<p>それでは、1つ1つについて質疑を行っていきたいと思います。はじめに美術展覧会について、質疑のある評価人の方は、お願いします。</p>
評価人	<p>まず、美術展覧会について、対象が川越市民に限定していませんよね。これがどういった理由によるものなのか、ということが1つ、そ</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興 課担当	<p>れから、現在、美術作品の部門が5つということになっていますが、これを変更する、あるいは少しいじってみるということは考えておられないのか、その2点についてまずお伺いしたいと思います。</p> <p>川越市を中心とする地域住民ということで、川越市民に限定しない運営としては、もともと川越美術協会と一緒にスタートした経緯があります。美術協会に加入していたメンバーは、川越市民に限られず近隣の市町村から参加された方もいらして、そういった近隣の市町村からの参加もいただいてやっていこうというのが展覧会の始まりであったという経緯がありまして、川越市を中心とする地域住民を対象としております。</p> <p>2点目につきましては、共催しております川越美術協会における部が日本画、洋画・彫塑、工芸、書、写真の5部門になっております。過去には華道・生け花もあったという経緯もありますが、美術協会からの脱退に伴い、現在はこの5部門でやらせていただいております。</p>
評価人	<p>何点かお伺いしたいんですが、役員と審査員とは同じでしょうか。これは何名で、美術協会の方々を中心だとは思いますが、この5部門それぞれに何名ずつといった形でお答えいただきたいと思っております。気になるのが、役員の方の作品の割合が大きいというのがありますが、役員の方は任期とかあるのか、固定なのか、伺いたいと思っております。役員の報酬がどうなっているのか、また入選された成績優秀者に褒賞を授与するとありますが、その褒賞について詳しく伺いたいと思っております。</p>
文化芸術振興 課担当	<p>まず、役員について、ご説明いたします。役員につきましては、美術展の運営委員、審査員、展覧会委員を総称して役員ということで運営しております。運営委員につきましては、5部門から2名ずつ、美術協会の幹事、各部から持ち回りで4名、それに運営委員長として美術協会長を加え、運営委員は全員で15名となっております。審査員につきましては、各部門7名ずつとなっており、合計で35名となっ</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>ております。展覧会委員につきましては、日本画、工芸、書、写真の4部門で7名ずつ、洋画・彫塑の部門では10名となっております。展覧会の出品者には洋画・彫塑の部門が多いため、委員も多くなっております。</p> <p>役員の報償ですが、運営委員は7千円、審査員に対しては5千円、展覧会委員に対しては3千円を報償金として、支払っております。</p> <p>褒賞につきましては、埼玉県知事賞、埼玉県議会議長賞、埼玉県教育委員会教育長賞を全部で5賞いただいております。これを各部門持ち回りで1賞ずつ配分し、各部門のトップの賞となっております。埼玉県の生涯学習文化財課で主催しております埼玉県芸術文化祭地域文化事業に毎年応募しており、採択された際には芸術文化祭の奨励賞と会長賞も各部門に1つずついただいている状況です。その他、川越市の市長賞、市議会議長賞、教育委員会教育長賞、美術協会の協会賞、後援をいただいている各団体から1つずつ賞をいただいております。また、今年は、学生奨励賞として、学生を対象とした若者向けの賞を各部門に1つずつ設定し、若者の参加を促したいと考えております。</p>
評価人	<p>役員の方があまり入選されると褒賞のメンバーが固定化するということはないのでしょうか。</p>
文化芸術振興課担当	<p>褒賞については、一般の方を対象に選考しております。</p>
評価人	<p>役員以外の一般の出品者ということですね。</p>
文化芸術振興課担当	<p>一般の方です。</p>
評価人	<p>事業の目的なんですが、川越市の場合は市民文化祭があるが、その位置づけとこの美術展覧会の位置づけとは、どうお考えなのでしょうか。また、一般とは書かれていますけれど、美術協会との関わりが強</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興課長	<p>く、一般的に広く市民が参加しやすいとは言えないように感じますが、どうでしょうか。</p> <p>市民文化祭につきましては、文化芸術振興計画の中で地域文化活動への支援と文化交流とありますが、その中の文化芸術活動の支援ということで行っております。市民文化祭につきましては、文化団体連合会、こちらには美術協会は入っておりませんが、華道、茶道、民謡、踊り、様々な団体がありまして、それぞれが団体ごとに市民文化祭として実施していただいています。美術協会は、そちらとは分かれておりますので、芸術分野については、棲み分けがされていると考えております。市民文化祭は何年か前から総合開会式というのを始めました。これは市民文化祭は各分野ごとにそれぞれの団体が中心になって市内の様々な会場で行われていますが、それを取りまとめてやりましょうということで行っていますが、その際に、美術協会は文化団体連合会に入っていないが、展示ということでご協力をいただいています。全体としては、分野が違うということで棲み分けが行われている状況になっています。</p>
評価人	<p>指標について、出品点数、入場者数を成果と捉えていますが、これが成果なのだとなれば、出品点数を増やすためにどのような活動をしているのか、あるいは入場者数を増やすためにどういう活動をしているのか、そういった活動指標がまったくないのですが、何をやっているのでしょうか。</p>
文化芸術振興課担当	<p>出品点数、入場者数の増加のための広報活動として、市で発行している広報川越に、毎年6月、募集記事を掲載しています。また、展覧会開催前の9月に発行されます広報紙には川越市美術展覧会を開催しますという記事を掲載しています。毎年、各高校、大学には、開催要項を送っていましたが、今年から学生奨励賞を設けたということもありますので、個別に高校を1つずつ回り、美術展覧会のご案内と出品のお願いをし、広報活動を行っています。顧問の先生からは、「今</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>まで知らなかった」というお話もありましたが、今回、そういった先生方にもアピールできましたので、今後も継続して広報活動を行っていきたいと考えております。</p> <p>そういったことを数値目標としてここに設定して書き込んでおいた方が良いと思います。指標に基づく評価ということで、出品点数が減少しており、その要因として出品者の平均年齢の上昇を捉えています。これは直接的に結びつく要因ではない、高齢化が問題点だとは思えません。そうすると問題点を違う風に捉えていると、解決策も変わってきてしまうこととなります。もっと違うところに若い方の参加が得られない原因があるのではないかと思います。出品者の半数近くを役員が占めているということで、若い方が参加しにくい組織、団体になっているのではないのでしょうか。昨年、日展や県展で審査のことが問題点として取り上げられていますが、川越市ではそういったことはないのでしょうか。</p>
文化芸術振興課担当	<p>審査については、公開で行っており、希望者を募集して立ち合ってもらって審査しています。また、講評を行っています。これには出品者の方が多く参加しています。最近、始めたものですが、徐々に参加者が増えており、今年は高校生も講評に参加しておりますので、かなり勉強になったという話をいただいています。そういう意味では参加しやすいような取組ができていると考えています。</p>
評価人	<p>ある人の話では市の美術展で3回入選すると美術協会の会員になれるといった話もありますが、それは認識されていますか。</p>
文化芸術振興課担当	<p>はい。</p>
評価人	<p>そういうことが、若い人が入りにくくしている原因ではないかと感じます。まったくオープンで序列も付けずに、見る人に良いものは良</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興課長	<p>いと思ってもらえば良いと思います。美術というのは、難しい芸術だと思いますので、簡単に序列が付けられるような類のものではないと思っています。それならば、より多くの作品をオープンでやっていくのが、市として直接に運営するのであれば、良いのではないのでしょうか。美術協会の事業であるのならば、補助事業としてやるべき事業ではないかと思うのですが。</p> <p>補助事業で行う場合は、美術協会に実質的な展覧会の開催をお願いして、そこに会員以外の方の参加を前提として補助を出すという仕組みだと思います。現行の方法も実質的に同じだと思います。美術協会展は、美術協会の会員の方が出品されて、これに市は直接関与してはおりません。また、美術館において公募した作品を陳列する目的は、鑑賞ではなくて、芸術の創作活動の発表の場と考えております。鑑賞事業自体は、著名な作品を美術館の事業として行っています。作品の展示につきましては、ご懸念のように美術協会の役員が主体的にやっていますが、評価は応募作について氏名を伏して評価しております。芸術の分野におきましては、例えば、書などには、お弟子さんと先生という関係もございます。そうするとお弟子さんを優遇してしまうのではないかということは、応募者からもご意見をいただいておりますので、ブラインド評価という方法を取っております。入賞3回で協会にということですが、私どもとしては、協会に入るためのハードルとして実施しているものではございません。たしかに出品者の中に役員の数が多いのは、役員の方にも市民として文化芸術に参画いただいているわけですから、その発表の場を兼ねているということで、役員の方を優先して展示しているということではございません。より多くの方にご参加いただけるように2期に分けて出品をお願いしています。</p>
評価人	<p>市民としての感覚で申し上げますので、失礼があるかもしれませんが、お許してください。</p> <p>この手の美術云々というと趣味趣向の世界であって、幅広く市民の方が美術に対して関心を持たれているかということ、そうではないと思</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興 課長	<p>います。この資料をお読みしますと、若年層の参加が少ないので、値段を下げて若年層の参加を促すと事業が活発化するのではないかと読み取れますが、それでは若年層は応募しません。学生には、ほかに発表の場が至る所にありますので、出品手数料を下げても参加は広がらないと思います。若者の心をつかみたいのであれば、ジャンル分けをなくし、アート全体、フリースタイルとし、学生にこだわらず、小学生、幼稚園児でも良いのではないかと思います。そこまでの気はないでしょうか。失礼な言い方をしますが、行政が暇になると、やたらと賞が増えてきます。賞を乱発するのではなく、1つとか2つとかに賞を絞られて、幅広く広報活動をされて、年齢層を下げて、再構築される考えであれば、継続も良いと思いますがどうでしょうか。</p> <p>部門をなくす、フリースタイルの件ですが、市と美術協会とで共催という形で実施しており、選考、展示を含めて美術協会にご協力いただいていますので、美術協会の現行の組織でない部門について、ご提案いただいたことについては、美術協会に伝えていきたいと思えます。市民を対象とした広い意味合いだと、その発表の場とご意見いただいたことについては、市の方の考え方として整理した上で、協議させていただきたいと思えます。実際に運営をお願いしているところは、選考を含めると素人では選考できない、美術協会も素人ではありませんが、美術展を運営するに当たっては、その辺をどういう風に見るのかや単なる出品を全てフリーで出せるかということ併せて検討させていただきたいと思えます。賞を増やす問題については、市からは市長賞と議長賞で、他は協賛であったり県からもらえるものです。学生奨励賞は、該当無しということもあり、質の高いものに与えていきたいと考えておりますので、乱発という意図はございません。学生の方の参加を促すのは、お金の問題ではないと思えます。ですから、出品手数料を下げたことより、部活動の顧問の先生に働きかけをしたことが、参加が増えた要因ではないかと考えております。</p>
評価人	特にありません。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	評価のところで、25年度のところで、入場者数の目標が4,000 となっていますが、誤植でしょうか？
文化芸術振興課担当	4,000 です。
評価人	どうしてでしょうか。年度ごとに見ていきますと、前の年度では4,570 になっていて、26年度は4,500 となっています。どうして25年度は、4,000 なのでしょう。4,500 ではないでしょうか。
文化芸術振興課担当	申し訳ありません。今この場では確認できませんが、もしかしたら昔、設定した年次計画が変更されずに残っているものなのかもしれません。
評価人	何年か前に4,000 で設定したけれども、上がってきたということですか。
文化芸術振興課担当	そうかもしれません。
評価人	出品料を1,000 円に下げた効果というのは、どれくらいありましたか。
文化芸術振興課担当	昨年の10代の出品は0 だったのですが、今年は21 ありました。
評価人	増えた21のうち、一番多かった部門は何ですか。
文化芸術振興課担当	写真です。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	その次は。
文化芸術振興課担当	その次は、洋画です。
評価人	以上で、美術展覧会については、質疑を終わりにします。 2つ目の文芸川越編集刊行について、質疑をしたいと思います。
評価人	この資料を拝見しますと、減少が大きな課題になっているということですが、減少しているのは、短歌、俳句ですよね。短歌、俳句、川柳の減少について、どのような理由によるものとお考えなのかということが1つ、もう1点が、若年層、特に10代の応募が詩歌、小説、俳句に偏る傾向がありますが、なぜこうなっているのかという点について、分析できているかわかりませんが、お伺いしたいと思います。
文化芸術振興課担当	短歌、俳句が減少傾向が強いという点ですが、市内で活動している文芸団体の数について統計を取っておりますが、やはり投稿者数が多かった頃は、主に市内の公民館を拠点にして活動している団体数がかなり多いです。平成元年につきましては、短歌につきましては、市内の団体が19あったものが今の34号では12団体、俳句につきましては27団体あったものが10団体に減っております。こういったところが、長編の詩、随筆、小説につきましては、単独で応募してこられる方が多いのですが、短歌、俳句、川柳につきましては、活動団体を通して応募される方が多いので団体数の減少が一番大きな原因だと考えております。
評価人	そうしますと、団体数が減った理由をしっかりと検討していただく必要があると思うのですが。
文化芸術振興	団体数の減少については、分析できていないのですが、かつては公

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
課担当	<p>民館で仲間うちでやっていた団体というのが、徐々に高齢化に伴い新しい人の加入もないまま活動をやめてしまったのではないかと感じています。</p> <p>若い方の投稿が多い詩、小説、俳句につきましては、市内の高校の文芸部の先生が活発に活動されているので、その先生の指導の下に部門を決めているのか、そのときに良いものを出していただいているものと思いますが、年度によって詩が多かったり、ということがありますが、今回は小説が多かったです。</p>
評価人	発行部数とその配布先は。
文化芸術振興課担当	発行部数としては、1,000部印刷しております。投稿者が300名ほどおりますので、300部くらいが投稿者の方に、公民館や金融機関など公共の場所、関係団体、関係機関などにお配りするのが、500部くらいです。
評価人	200部くらいの余裕があるということですか。
文化芸術振興課担当	<p>そのとおりです。</p> <p>購入希望の方もいらっしゃいます。</p>
評価人	どのようにして購入するのですか。
文化芸術振興課担当	<p>広報に作品募集のお知らせと購入できますという2つのお知らせを掲載していましたが、購入できますのお知らせが載せられなくなってしまいましたので、購入件数は減っております。口コミで、例えば金融機関の待ち時間にご覧になった方からのお問い合わせに対し、ご案内しています。</p>
評価人	選者は、何名ですか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興課担当	6つの部門があり、各部門3名ずつです。
評価人	どういふ方ですか。
文化芸術振興課担当	編集委員は、短歌、俳句、川柳につきましては、公民館の講座で講師をしている先生などで、詩、随筆、小説につきましては、ご自身でもそれぞれ文芸創作活動をされている方、民間の同人誌をやっている方など、今の編集委員からご推薦をいただくなどして、探しています。
評価人	任期などはどうなっていますか。
文化芸術振興課担当	定めておりません。
評価人	継続して長期間やってらっしゃる方が多いということですね。
文化芸術振興課担当	はい。
評価人	応募者と掲載者数を見ますと、ほとんど掲載されるということですね。
文化芸術振興課担当	はい。
評価人	グループで活動されている方が選者になっていると、お弟子さんが応募して、それがそのまま通るといふことが多いのかと感じてしまいます。文芸作品は全国的に様々な会派や団体があり、そういうものに加わっている方もたくさんいると思いますが、こちらはそういうセミプロ的に活動されている方というよりも、一般的な市民を対象とされ

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興 課担当	<p>ているということですね。あまり審査なしに掲載されるのかと思いますが、掲載に値するものが、きちんと掲載されているのか不安が残るのですが、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>応募者数に対して掲載者数がほぼ同数、若干少ないということは、長編の小説や随筆については、編集委員3人がそれぞれの見方を見て掲載するに値しないと感じるものについては、掲載をしないで、言い方は変ですが落選のような形になります。短編につきましては、1ページに4人が載せられるので、応募した方ほぼ皆さんを掲載しても、さほど影響はないのですが、やはり作品として掲載に値しないものはあります。編集委員の先生方が見て、書き方などおかしいと感じるものは、作者本人と連絡を取って、ご本人の了解を得て直して掲載ということはありません。</p>
評価人	<p>素人の趣味活動でやっている作品、手が入るものもあるようですが、そのまま掲載してそれを市外にまで配布することに意義があるのでしょうか。文芸作品としての価値がきちんと担保されているものではないように思う。仲間うちでこういうものを作ることもあると思いますが、そのレベルを超えているのだろうか、という疑問があります。もう少し厳格な審査を経て絞って載せるとかしないといけないのではないのでしょうか。</p>
文化芸術振興 課長	<p>選考という形は取っていますが、応募作品がほぼ全て載っているという状況です。文芸誌として質を高めることが文芸川越発行の目的であるならば、そういった方向性を強く出すこともできると思いますが、創作活動を促すことも目的の1つでありますので、バランスが必要かと思えます。美術展と異なり特段賞は設けておりません。掲載されること自体が入選のようなものです。記念号ごとには設けましようという話もありますので、5回に1回くらいは、という話が文芸の方でもありますので、そのときには十分な審査をして、受賞は限られた1作品、部門ごとに1作品という形にしたいと思えます。通常は掲載</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>されること自体が、編集委員さんに読んでいただき上で、掲載に値するというので、選定されたということです。他市の事例では、さいたま市、所沢市においても、載せられる限りは載せているものと思います。これを絞ったとしても、経費の削減効果はあまり見込めません。</p> <p>もちろん質の担保という点については、おっしゃるとおりだと思います。そこは編集委員さんをお願いして掲載に値するとご判断いただいて出しているものです。</p>
評価人	<p>団体の編集委員さんがいらっしゃるということで、応募の時点で既に手が入っているという可能性もあるということですよ。</p>
評価人	<p>応募の時点で一定の質は確保されているということですね。</p>
文化芸術振興課担当	<p>川越の福原地区に住んでいますが、この冊子が目に触れたことがないです。添付資料には小中学校に配布されているとありますが、あまり人の目に触れる機会がないのではないかと感じます。この宣伝活動は、どういう風にされているのか、これを広く市民に限らず他の市町村に広げていくのか、川越市民に限定していくのか。この文芸川越に名前が載ることが、一定のステータスになるというようにモチベーションが上がるのかというと、そういうことはないだろうと思います。市民感覚からするとお金がかかっているということです。財政が豊かであれば、こういう文化的な情操教養というのも必要だと思いますが、財政が圧迫している中で特定の分野だけに偏ってしまうものが良いのだろうかと感じます。</p> <p>実施にかかるコストが 27 年度から 0 になっていますが、これは数値が入っていないだけでしょうか。</p>
評価人	<p>記入漏れです。</p> <p>銀行や図書館でも目にしたことは、ないです。35 年も続けていると</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興課長	<p>ということですが、同人誌のような感じで、有償ボランティアかNPOで活動されても良いのではないのでしょうか。最初の取っかかりのところだけ、市が用意して、あとは市民との協働とか、そういう形で文芸川越が存在しても良いのではないかと思います。</p> <p style="padding-left: 40px;">NPO等と連動してやるという考えはないのでしょうか。</p> <p>例えば、非営利団体がこういう活動について協働などの可能性はあるかということ、私どもからそういう働きかけも、そういう団体の精査もしていませんが、スキームとしてはかなり難しいのではないかと考えています。通常は、同人誌というのは同好の士が集まって作っているものだと思います。公募したものを掲載することを市の文芸川越としてやりますとなると、協働の受託業務としてはあり得るのかもしれませんが、行政経費の圧縮ということを考えますと現実的には厳しいと所管課としては考えます。行政としてこれを継続するかという点では、今は、ブログやネット小説もあり、様々な発表の媒体があります。目に触れる機会としては500部を刷ったところで、図書館の目立つところに置いてあるわけではありませんし、なかなか目に触れるのは難しいであろうと思います。あとは作品をそれなりの媒体に載せて発表するということになると別の分野の検討が必要になると思います。紙媒体で文芸誌を編集することの価値、意味は、35万の市民に対してどれほどかということ、厳しいものはありますけれども、細々としてでも文芸の発表の場があるということは、必要であると考えています。ものを書いて、それを紙に書いて発表するという場を行政がなくしていくと、素人、一定のレベルにあることを前提とした素人の発表の媒体としては、事業を縮小したときの影響として資料に記載したとおりです。</p>
評価人	<p>「文芸」という響きにロマンを感じるが、市民感覚として、ムリ、ムダがあっはいけないと感じます。一方で、古いですから、残さなければいけないとも感じます。これが、川越の香りのする、持っているだけでアイデンティティを感じられるものになれば良いと思いま</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>す。</p> <p>2点お伺いします。1点は、美術の場合は出品料が取られていますが、こちらは掲載する人は何の負担もしていませんが、その違いは何なのでしょう。次の点が、書物、本と言え、有料で手にするということが大きな指標であると思いますが、応募者数、掲載者数を成果指標として捉えていると、出す側、書く側だけの評価であって、読み手の側からの評価が出ていないので、有料販売部数を成果指標とすべきではないかと感じるがどうでしょうか。</p>
文化芸術振興課担当	<p>出品料を取っていないという点ですが、何度か検討はされていますが、ご覧いただければわかるとおり、短編ではこれだけのスペースです、長編では、何ページ、十何ページ使います、というところを、短編だから安くしよう、長編だから高くしようというのも難しいところもあります。近隣の団体を調査したこともありますが、有料にした場合に出品者数が減るというところもあり、なかなか有料化には踏み切れないところです。</p>
評価人	<p>世の中でいうと、自費出版というのがありますが、昔に比べるとかなり増えているそうですが、自費で負担しても出したいという人もいることを考えると、出品料は考慮すべきではないかと思います。</p>
文化芸術振興課担当	<p>小説や随筆の長編につきましては、出品料を取るという形でも、自分の力量を試すという部分で応募される方もあるのかなと思いますが、短編につきましては、高齢の方が多いいということもありますので、冊子の質を上げるという意味では必要性も感じられますが、手軽に高齢になっても参加できるものと考えていますので、検討が難しいところです。</p>
評価人	<p>冊子の形で発行することの意義はどこにありますか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
文化芸術振興課担当	例えば、電子媒体とか、そういうことですか。
評価人	そうです。
文化芸術振興課担当	出品される方が、まだ手書きで書かれるような方ですので、手書きのものがこういう活字になるということは、無くしたくないと考えています。
評価人	活字になる途中でデータ化されていますよね。それを電子媒体に乗せるということは可能ですよね。
文化芸術振興課長	おっしゃることはごもっともだと思います。もう一つ言えるのは、文芸川越という形が、市のホームページなどに、文芸川越というサイトを作り、そこに選ばれることが1つのステータスであるという位置づけと合わせないと、ブログの延長になってしまい、何の意味もないということになってしまいます。コストの削減はされるのですが、文芸川越とは何かというところを、先ほどいただいたご意見も踏まえて、クオリティを高めるということを考えなければいけません。編集等の作業は市の職員がやるわけではなく、ある意味NPOに近い皆さんが編集をしてくれている中で、川越市が文学活動にどう携わるかということになります。今後、基本計画の策定に当たりまして、電子媒体のことは課題だとは思いますが、当面、それを作り込むのは難しいと感じます。
評価人リーダー	評価人の皆さんは、まずは採点シートを優先してご記入いただき、その上で意見シートをご記入いただきたいと思います。
	評価結果発表
評価人リーダー	それでは、各評価人から簡単に講評をお願いしたいと思います。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
一 評価人	<p>美術展覧会は、時代の適合性から、3、2、4、3、3で、トータル15点です。時代の適合性は、3点ですが、広く美術ということで趣味嗜好の分野というものであり、今の市民ニーズには合っていないのではないかと、それを行政で補完する必要があるかというところで、補完性については2点と厳しく評価しております。効率性については、トータルの事業費の予算が、比較的小さい、人件費は除いてですが、事業費は170万程度なのに、特定財源、これは出品料だと思うのですが、120万円ほどあり、かなり出品料で賄っているといったことで、効率性については4点としました。有効性については、一般に目的が創作性ということで挙げられておりましたので、創作性というところでは低いと思いますので3点。方針の妥当性ということになると、出品料の値下げ程度で、1,000円にするなら無料にすべきであると思いますので3点、トータル15点としました。</p> <p>文芸川越は、時代適合性3点、以下、2点、2点、3点、3点としました。時代適合性は、紙媒体であるということですが、先ほど電子媒体の話もありましたが、本として残したい、形を残したいというニーズはあると思います。ただ、紙自体が時代遅れになってきていると思いますので3点です。行政が補完する必要があるかということで、2点。効率性も載せたい人の作品の質の向上が図られていないので2点。有効性も3点。方針妥当性もこのまま継続という状況ですので3点。トータル13点となり、少し低いと思います。</p>
評価人	<p>美術展と文芸川越、いずれもオール3です。よく考えたかと言われるかもしれませんが、考えました。美術展は、文化祭との関係で市民から見たときに立ち位置が見えない、文芸川越も川越市民にとってこの雑誌を持っていることが、他の市町村に比べて、プライドやモチベーションになるのかが見えず、位置づけが見えません。どこかで市民の方に聞く機会があれば、美術展覧会と文芸川越の存続について聞いてみたいと思います。そういうことで、3としました。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>美術展覧会は、4点、3点、3点、3点、4点としました。芸術活動を市が奨励するために、機会を提供する役割を果たしているということ自体は賛成です。展覧会も文芸誌も同じ芸術作品として見るという点でそういうものを奨励していくこと自体は反対するものではないです。ただ、芸術活動というのは人に感動を与えるものですから、それなりの質が大事だと思います。市民が誰でも参加して、誰でも展示できます、誰でも掲載されます、というのでは、芸術の奨励にはならないと思います。それは仲間うちでやってもらえば良いことで、行政がやる必要はないと思います。そういう点で文芸川越の方はオール2点で、美術展覧会と差が付いたのは、美術展覧会の方は審査の目がきちんと入っていて、その度合いはわかりませんが、きちんと専門家が見て、褒賞のシステムがあって、そういうものがシステムの中に入っているということで、高めに付けました。ただ、私がこれまで採点してきた中では低い方であるということはお伝えしなければならないと思います。</p> <p>文芸川越の編集刊行につきましては、これまでこういう点を付けたことはありません。学校の文集のようなものを市が作って配布していくことが必要であるのかということです。ほとんど審査の目が入らないものを1,000部も作って、市外にまでばらまくという、それほどの価値があるものだろうかということが、たいへん疑問であると感じております。何度も申しますが、どういう風に作って、市民の創作意欲をかき立てて、質の良い文芸誌を育てていくかという視点がなければ、この事業の意味はないのではないかと思います。</p> <p>両方に通ずることですが、市民に広く周知されていないということも問題点ではないかと思います。特定の人たちの仲間うちで回っているという感じがして、市民の中の関心を持っている人たち、若い人たちも含めて、どう取り込んでいくのかというのが課題であると感じました。</p>
評価人	<p>私は、上から4、3、4、3、3です。時代適合性ですが、一般論</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>として文化とか芸術というのは必要であろうと、生き方として仕事一辺倒ではないであろうとっておりますので、時代適合性はあるだろうと思い4点としました。ただ、補完性ということで、行政がどこまでこれに関わるのか、というところで、美術展の事業目的について、美術思想の普及と創造的表現力の開発・・・と大きな題目から考えて、5部門でそれを問うということには疑問があります。若い人たちを取り込みたいとかそういう考えがあるのであれば、もう少し広い美術分野というのが作られていますし、違う視点があると感じます。効率性については、この金額でやられている美術の評価についても、概ね妥当と感じました。有効性については、本来の目的に合致した成果を上げているかどうかというところ、事業目的に対して中途半端ではないかというところ、方針妥当性については、継続ということですが、美術の方は、5部門に絞ってしまうと、文化を広めていくという点からは少ない、限定的な趣味になってしまうのではないかと思います。</p> <p>文芸誌の方も同じですが、「広く市内の」と書いてあるわりには、私は1,000部の発行部数は少ないと感じました。配布先が、もう少し人の集まる場所とか、工夫が必要なのではないかという気がします。ある年齢の人にとっては、仕事をしているうちにはなかなかこういうことは時間がなくてできませんが、仕事から解放されて何か趣味を持ってやってみたいと思ったときに、こういうものがあると1つの励みになるのかなと、やってみたら入選したとかでそれを続けてみたいとなれば、生きがいにもなるのかなと思いますので、続けていただくのは良いと思います。</p> <p>美術展覧会の方は、上から、4、4、3、2、3としました。私は、文化芸術関係については、自治体が積極的にやるべきであるという考え方を以前より持っております。これをやるのは、行政であるということには変わりはありませんし、こういうご時世ですので、余暇時間をどう使うのか、定年退職後の時間をどう使うかということを考えますと、時代適合性はこれくらいは認められるだろうと思います。ただ、問題となってくるのが、これは構造的な問題だと思っています。事業</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>そのものに意味があることは確かなんですが、だとすれば、なおのこと市民の作品を広く募集する仕組みがあった方が望ましいと思います。なぜ5部門なのかというところに疑問があります。先ほどの説明で、5部門でなければうまく回らないということはよくわかったんですが、若い方であれば現代アートなりCGなり、新しいタイプの美術芸術という方が、関心を少なからず持てると思います。そういった場を設けた方が良いのではないかと。若年層の参加が少ないのは当然といえば当然なんですが、これが、美術に関心を持つ余裕がないからなのか、この5部門に代表されるような伝統的な美術に関心がないだけなのか、というところについてしっかり見ていかなければいけないと思います。逆に言えば、今後の課題は、関心を持ってもらうために細工を施すことではないかと感じました。有効性を2にした理由は、結局のところ、そもそもの目的というのが、地域文化の向上であると。しかしながら、こういうふうに限定してしまえば、地域文化全体の底上げをすることは難しいのではないかという点から少し低くさせていただいております。</p> <p>文芸川越の方は、3、4、3、3、3としました。が、当初の予定では、これより4、5点低くなる予定でした。しかし、最後に「活字になることがステータス」という言葉で変わりました。私が紙媒体についての話をしたのは、電子媒体で発表せよ、ということではありませんでした。最近の若い人たちは、自分の書いた作品を自分でネットにアップしたりすることが多いです。より広く見てもらうためにそっちを使うけれども、これにする意味は何かという趣旨だったんです。もし、さほど意味がないということであれば、ネットでみんなであれば良いのではないかということで、時代適合性もないし、行政があえてやる必要もないし、効率性も悪いではないかということで、点数が低くなる予定でした。しかしながら、活字にすることが1つのステータスだという話になりますと、これはお金がかかる話になりますから、行政において積極的にやらざるを得ない話になると思います。ただし、その場合であれば、質の確保をしなければならない、ということになります。文芸川越に載るということは、素人としてはかなりのも</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>のだというところまで持っていかないと、活字にすることがステータスという話にはなりにくいのではないかと思います。いずれにしましても、平均点的な感じになってはいますけれども、気になったのは文芸団体が少なくなってきているということです。最近のこうした文芸活動というのは、個人ベースに移行しつつあるということだと思いますので、それに対応した発表の場の設け方というのを考えても良いのではないかと思います。</p> <p>2つの事業、共通して上から3、2、3、3、3です。両方の事業とも内部評価は適切だと思いました。つまり、何が問題かということには分かっていると。しかし、将来どう取り組むかということがまだまだ弱い。そこがネックだろうとおもいます。まず、時代適合性、これは否定できないんです。否定はできないんですが、高く点数を付けることは難しい。先ほど他の評価人から出たのとまったく同じ理由なんです。もともと美術とか文芸というのは、限られたものなんです。それを広くしていくということは、秀でたものがリードしなければならないんです。だから、どこにでもあるようなものを載せても何の意味もない。だからこそ活字にしたらすごいじゃないかと評価されるものにしてほしいと思います。だとすれば、同じようなメンバーで毎年やっていることにどれだけの意味があるのだろうかということなんです。それを市がやっているとすれば、補完性は低くなるということです。そういう意味で、広く参加を求めていくということであれば、より優れた作品を見出して、川越にはこんなすごい人がいるんだと、見出してアピールしていただきたい。そういうことがなかったらこれに広がりはないだろうと思います。そういう意味では、まさに質の確保も必要だし、文芸川越であれば売れるもの、売れないものなら参加費をもらうべきです。売れるものには原稿料が出るんです。そのような考え方でやり方をもっと考えていくべきだろうというのが、結論です。そういう意味で、3、2、3、3、3となりました。</p>
評価人	<p>全員の結果を合わせますと、美術展覧会の方は52点ということに</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>なりまして、事業のあり方の妥当性は「やや低い」という評価になります。文芸川越編集刊行の方も 47 点ということになりまして、同じく事業のあり方の妥当性は「やや低い」ということになってしまいました。ご検討いただければと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">- 休憩 -</p> <p>(2) 2 事業目の外部評価 【対象事業：「勤労者福祉補助事務」(雇用支援課)】</p> <p>事業概要の説明</p>
雇用支援課副 課長	<p>事業概要についての説明(雇用支援課)</p> <p>質疑応答・議論</p>
評価人リーダ ー	<p>それでは早速ですが、何かご質問のある評価人はお願い致します。</p>
評価人	<p>中小企業退職金共済掛金補助規則ですが、昭和46年規則の全部改正を平成22年度に行っておりますが、具体的にどの部分に問題や課題があって改正になったのでしょうか。</p>
雇用支援課長	<p>雇用支援課の前身であります緊急経済対策室の時代に、緊急経済対策の1つの施策として、一部、上乘せ支給をしております。その関係で平成22年に改正しております。基本的な部分は変わっておりません。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	特に趣旨は変えていないということですね。補助の率に変化があったということによろしいでしょうか。
雇用支援課長	そうですね。一部上乘せをしているという形です。平成21年度から23年度は従業員1人あたり1,000円の特別加算をしております。
評価人	要綱の別表に示されている補助割合は制定当初から変わっていないということによろしいでしょうか。
雇用支援課長	変わっておりません。
評価人	中退共の制度そのものについてですが、基本的には国の制度ですよね。国のほうも加入促進でメリットを付けていますよね。更に川越市でこういったメリットを付けることの意図はどういうところにあるのでしょうか。同じ国の制度であって、県が違ったり市町村が違ったりすると、国としては同じ制度でありながら受けるところは自分の住んでいるところあるいは勤めているところによって内容が変わってきてしまうのは、国の制度として良いのかどうか疑問に思います。
雇用支援課長	一つの趣旨としましては、中小企業の育成という部分も含まれております。その中で川越市の場合、県内でもリーダー的な存在でもありますので、当初はかなり手厚くしていた部分があると思います。過去の労働基本調査において、退職金を設けていないという中小企業が多く、割合的にもかなり低い状況でございましたので、その部分を手厚くする中で従業員の雇用の安定も含めまして対応してきたものと考えております。
評価人	成果の指標にある中退共事業所補助金申請率ですが、目標については全部加入させることが目標なのか、ある程度のところでやめるのか、最終的な目標はどういうところに置いているのでしょうか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
雇用支援課長	<p>まず指標の見方ですが、中退共事業所補助金の申請率ですので、すべての事業所の何%が入るかという指標ではございません。こういう補助制度を持ってありますから多くの事業所に使っていただきたいという PR を兼ねて挙げさせていただいております。ただ、現在の経済情勢、社会情勢を見させていただく中で、もともと退職一時金制度自体が従来 of 終身雇用制度に基づく考え方の一つと思っております。非正規雇用とか臨時的雇用など期間が限られてしまっている人が増えている中で、そういう部分が賃金に上乗せしていたほうがいいのではないかという意見が一部出ております。実際のところ人生 80 年と言われる中で老後の生活を考えていきますとやはり退職一時金というのはあったほうがいいとは考えておりますが、経済情勢、社会情勢の変化によりまして、この辺は考えていきたいと考えております。</p>
評価人	<p>退職金というと、経営者や法人側が自助努力でやるべきもので、それを市が補助率を上げることのメリットはなんでしょうか。例えば、補助率を上げたことによって市内に事業所を持っている法人の雇用が増えたとか、雇用が増え企業が増収増益を上げ、ひいては法人税の税収が増えたというような連動性があるのかどうか。</p>
雇用支援課長	<p>経済指標と関連した部分では直接的な部分での調査はしておりません。ただ、関連性としてどうなのかなというのはありますが、現在の中退金制度は社会的な情勢等を含めてそれ程伸びていないのが現状です。今回、中退共による川越市内の事業所の増え方などの調査をしたのですが、平成 16 年度に 340 事業所だったものが平成 25 年度時点で 596 事業所が加入されている状況でございますので、川越市ではこの制度による実績というのでも多少出ていると思います。</p>
評価人	<p>できるだけ「見える化」してほしいですね。データを取っていただかないと説得力がないです。基本は各法人経営者の問題でしょう。平成 14 年に確定給付企業年金が施行されましたけれど、平成 24 年 3 月に的退職年金が廃止されましたよね。そこから一気に中小企業の</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
雇用支援課長	<p>中退金をどうしようということになったわけで、補助を高めることによって企業の延命行為を、自助努力を抑え、ひいては事業収益が落ちて、結局は川越市の税収が増えてこないということがあり得ているのではないのでしょうか。もし、雇用が増えて事業所が増えて法人税も増えましたというような裏付けが実績として出ているのであれば、財政に余力があればやりましょうねという話になるわけです。今の話の限りでは、その辺が見えてきません。</p> <p>確かに経済指標的には、雇用が基本ベースになるのですが、川越市内、例えば観光にしても産業振興にしても評価人さんが言われたとおり裏付け的にどういった経済効果があるのかといったことは調査していく必要があると思います。現状としては、この数値から税収に結びつくものかということは調査をしておりません。</p>
評価人	<p>継続して事業をおやりになるのであれば、その辺の裏付けはとったほうが良いと思います。</p>
評価人	<p>従業員数ですが、今は常勤職員の比率がそんなに高くないところも多いかと思うんです。非常勤とかパートなどの職員がかなりいると思うんですけれども、そういった職員は含まれるのでしょうか。それとも正規雇用だけが対象になるのですか。</p>
雇用支援課長	<p>一部パートの職員向けもございしますが、基本は正職員になります。雇用期間が短いとそれほど効果の出ないものとも思いますので、制度としては短期向けではないと思います。</p>
評価人	<p>そうしますと、非正規の人達は外されているということによろしいですか。</p>
雇用支援課長	<p>基本的には正規の職員が対象になります。また、パートタイマーの方向けの制度は別にあります。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>同じような趣旨の別の制度があるのですね。評価シートの成果指標・活動指標の分析について教えてください。指標にある中退共事業所補助金申請率は中退共加入事業所のうちの何%が申請しているかということによろしいでしょうか。</p>
雇用支援課長	<p>中退共事業所補助の対象となる事業所は、新たに中退共に加入した事業所と新たに従業員を雇った事業所になります。中退共加入事業所すべてが対象になるわけではありません。</p>
評価人	<p>定期健康診断については平成25年度に大きく増加しておりますが、何か理由はあるのでしょうか。</p>
雇用支援課長	<p>広報等に載せたときに対応される事業所が大きいと思います。通算3回の補助になりますので、すでに受けている事業所は受けられませんので徐々に減っていくと思いますが、川越市内で中小企業の入れ替えもございますので新たな部分もあると思います。</p>
評価人	<p>中小企業にとっては中退共事業所補助金も健康診断の補助も非常にメリットが大きい事業ではないかと思いますが、申請しないという事業所があるということはどういった理由が考えられますか。</p>
雇用支援課長	<p>従業員の定期健康診断は本来事業主さんの責務でやることになっておりますが、小規模の企業については診断率がかなり低いという状況もございますので、小規模の事業所に対して定期健康診断を定期的に行っていただきたいという希望から作った制度だと考えております。</p>
評価人	<p>指標にあります中退共事業所補助金の申請率が約75%ということですが、残りの25%はなぜ申請しないのでしょうか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
雇用支援課長	例えば、新しく従業員を1人採用したというような事業所につきましては、補助額が少額となりますので、その分事務経費をかけて申請に行くというのは、多少その辺もあるのかなと考えられます。
評価人	2点質問です。まず、中退共掛金補助規則によりますと、小売業、卸売業、サービス業は補助率が高めという内容になっておりますけれども、また、従業員数の設定も違っているのですが、このようにした理由は何かあるのでしょうか。2点目は、この割合は引き下げる方向で見直したいということによろしいのでしょうか。
雇用支援課長	補助率について、10%から30%まであるのですが、当初の考え方ですと小売業、卸売業、サービス業については小規模の事業所が多いということで、その辺を厚めにしているという考え方がございます。今後、縮小かどうかということですが、社会情勢的な部分もしくは予算の範囲ということもありますので、その中でバランスをとっていきたいと思えます。
評価人	中退共掛金補助規則の第6項に報告等という条文があります。「市長は、必要があると認めるときは、補助金の交付を受けた事業主に対し、当該補助金の対象となる退職金共済契約の掛金等に関する報告を求め、又は書類を提出させることができる」とありますが、これはどのくらいやられているのでしょうか。
雇用支援課長	今現在いる職員の中では、報告を求めたことはございません。ただ、申請を受けるときに細かく証拠書類等は確認させていただいております。
評価人	そうすると、補助金を出してそれを使ったということの証明はどのようにしているのでしょうか。
雇用支援課担	1月から12月を1年の周期と考えておりますので、前年1年間の

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
当	掛金に対して、翌年2月に補助の申請を出していただいて、使った実績に対して補助しております。
評価人	会社に戻しているのですか。
雇用支援課担当	そうです。
評価人	そうしますと、必要経費の計算ができるわけですよね。そうしますと、十分に儲かっている企業ほど必要経費で落とせばいいわけだから補助を払わなくて済むわけですよね。耐性の強いところはやっていける。体質の悪いところは市が補助して、逆に言うと、困っている企業や事業所の温存になっていませんか。
雇用支援課長	そこまでの補助になっているかという部分があります。
評価人	そこまでの補助になっていないなら補助の意味はどこにあるのでしょうか。
雇用支援課長	評価シートにも書かせていただきましたが、公平性の課題が問題だと考えております。
評価人	事業の実施を通じた分析に公平性に課題があるということなんですが、何に対して公平性に課題なのでしょう。
雇用支援課長	補助金の掛金に対しては上限がございませんので、高い掛金をかけられる足腰の強い事業所に対して補助金が多く出るような状況になっているので、自分達としては、足腰の弱いもしくは従業員の退職金の制度がないような事業所に対して補助したいと考えております。その部分に多少公平性がないものと思っております。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人リーダー	<p>それでは、各評価人の方は採点シート、意見シートの記入をお願いいたします。</p> <p>評価結果発表</p>
評価人リーダー	<p>それでは各評価人の方は講評をお願いします。</p>
評価人	<p>私はこの事業そのものについては必要だろうという立場であります。点数は、上から4, 4, 3, 3, 5です。補助率が他市に比べて上積みになっているということと、業種によって違うというところに違和感を覚えました。ただ、最終的な結論としてこれだけ高くなったのは、基本的には見直す方向であるというお話でしたので、問題認識している点において点数を低くする必要がなかったということです。ただ、効率性、有効性に関してはわからないと言わざるを得ませんので、その部分についてはやや低めの点数になりました。以上です。</p>
評価人	<p>私は3, 2, 3, 3, 5です。この制度自体は時代的にはどうなのかなと思っております。同時に、行政がこれに関わることは、企業に対しての考えとして疑問を感じます。自分自身で考えるべきことだと考えております。効率性などもよくわからないのですが、最終的には、方針妥当性でそういったことを見直すという方向でご検討されているということの評価いたしました。以上です。</p>
評価人	<p>私は、5, 5, 4, 3, 3となりました。時代適合性につきましては、今日非常に経済情勢が厳しくなっておりまして、その煽りを受けるのは中小企業、零細企業だと思うんですね。ですから中小・零細企業の経営者を支えていくということは、行政の役割として必要ではないかと思っております。そうした1事業者として、退職金であるとか</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>健康診断の負担が非常に重みになっているところを支えていくこの2つの事業は、それぞれに意義があるものと思っております。ですから、こうした事業を公平性の観点を重視しながらも継続させていくということの要請は高いのではないかと思います。行政以外にどこができるだろうかと言いますと、やはりなかなかできないわけですね。ですから行政が一定の役割を担うということは必要ですので、時代適合性、補完性を5点としました。しかしながら、効率性、有効性、そして方針については今後割合を下げていくという方向性について、それで市の経済に一定の貢献をできるのかどうかという点で難しいかなと思っております。中小企業の多くは非正規雇用でありますよね。ですからこうした支援の対象に非正規雇用を排除するという事は、そうした人達を経済的に苦境に追い込むことにならないだろうかという懸念があります。こうした事業の補助率を下げていく、どうしても絶対的な市の財務状況から見て下げざるを得ないというようなところがあるのかどうかわかりませんが、できるだけこうした事業は維持していただきたいと思いますと思っております。街の事業者の事業をどういう風に守り育成していくかという観点からも、こういった支援策というのは重要ではないかと思っております。</p> <p>私は今まさに中小企業の経営をやっておりますので、そういう視点で評価は厳しいです。この制度自体が昭和34年にその時代の背景のもとに出来上がった制度であって、今はこういった制度自体を積極的に促進する理由なんて何もないと思うんですよ。というのは、中小企業にいて退職金を出そうというのは、最低でも勤続年数10年ぐらい勤めないと出ないです。今現在、勤める人の精神的なものも、必ずしもこの会社にずっと居ようというような人はほぼゼロに等しいと思うんですよ。それでいてこの制度は、終身雇用や年金制度を前提とした制度ですので、制度自体が老朽化していると思います。あと、私から言わせてもらえば、中小企業を馬鹿にするなよとはっきり言わせてもらいたいです。中小企業は、たしかにダメな企業もたくさんあります。だけど意図して中小企業をやっている企業もあるんですよ。そう</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
評価人	<p>いった企業まで一つの形式要件で判断するというのはどうかと。たとえば社労士さんとかが補助金があるからもらいなさいなどのアドバイスをしてくれる方もいるんですね。ですからそういった人に乗っかってっちゃう人もいるし、将来大企業を目指そうと燃えている事業者もいますから、制度自体がすでに老朽化していると思います。ということで、点数は上から 2 , 2 , 1 , 2 , 2 で、効率性については、はっきりいって補助の名を借りたバラマキにすぎないんじゃないかと。何の見返りも返ってこないという風に思う制度です。そういったところで効率性、有効性は低いです。方針妥当性については、方向としては縮小の方向だということは良いと思いますが、もう一度、退職金の意義ですとか中小企業の意義ですとか、そういったものを見つめ直してどういう制度がいいのかということ深く突っ込んで検討してもらいたいと思います。以上です。</p> <p>上から 3 , 2 , 3 , 2 , 2 の 12 点です。大儀が見えないです。何のために補助しているのか。私は芳野台の工業団地に何年か仕事の関係で詰めてまして、中小企業の経営者と話をしたことがありますが、良い経営者というのはこの補助金を頼っていないです。健康診断についても自前でやっている。プライドというのが見えますね。また、働いている従業員もそれに答えようとする。良い人材を求める企業の強みになっているわけで、そこの逆を行っているんじゃないかなという気がいたします。もう 1 点は、最初に質問させていただいたときに、データがない、連動性がないということでした。では補助することによって川越市の税収に寄与するのか。こういう目線も必要ではないかなと思います。以上です。</p>
評価人	<p>私は、時代適合性が 3、補完性、効率性 2、有効性 2、方針妥当性 4 です。まずは時代性補完性については、そろそろ過去のものだろうなということですね。効率性については中小企業を支えている実態が見えない。これは皆さんの仕事としてやってほしいと思います。受けている企業がどれくらいの稼ぎがあってどれくらい市に税金を納め</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
<p>評価人リーダー</p>	<p>ているかという追跡調査を行ってほしいです。先ほど質問しましたが、それぞれの企業にとっては大した額ではないんです。でも、小さな補助でもいっぱいあると市の財政負担はものすごく大きくなるんですよ。自治体経営上非常に大きな問題になるということを指摘しなければならないと思うんですよ。そういった意味では、きちんと、この事業が中小企業を支え、中小企業を育てている、その証拠はこれだというものを示してもらいたいというのが感想です。</p> <p>全体の結果ですが、50点となります。事業の在り方の妥当性はやや低いという結果になりました。皆さんの発言を参考にさせていただければと思います。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>